

ワールドフェスティバルを開催しよう！ ～外国の文化を通して国際的な交流を深める～

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力・表現力

単元について

- 海田町は町内の人口における外国籍児童の割合が3.2%で広島県内一位(全国1947地区中93位)の地域である。本校には現在22名の外国籍児童が在籍しており、ブラジルやペルー、フィリピン、ロシア国籍の両親をもつ児童がいる。そのため日常的に外国籍の児童と触れ合っている児童も多い。このような特色のある環境の中で、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習を行うことは、児童の意識や考えを基にして、発展的に探究的な学習が繰り返すことができると考える。そして、日ごろ意識して考える機会が少ない外国の文化について全校児童に興味をもってもらうために、ワールドフェスティバルを開催して調べた内容を伝えることを学習のゴールとしている。本単元の学習を通して、常に発信の目的や発信相手などを意識して収集した情報を見直し整理することで、目的に応じて最適な内容を自身で考える力や多面的な側面から物事を判断する力が身に付くと考えられる。
- 本学級の児童は、2学期までに社会科や国語科、総合的な学習の時間で、広島、世界の平和の在り方について学習をしている。主に社会科の学習では、日本が原爆の被害に合うまでの歴史や、その後の復興の歩みについて学習した。また国語科の「東小発12歳の平和宣言」では、平和な未来の実現に向けて自分自身にできることについて考えた。そして総合的な学習の時間での社会見学では、語り部の方の話を聞き、当時の人々の暮らしや原爆の悲惨さを知り、自分が恵まれた生活を送っていることに気付くことができた。そしてその後の学習では自分自身にできることから始めてほしいという語り部の方の願いを受けて、平和な未来の実現に向けて自分自身にできることとしてのようなことがあるか話し合った。そこで児童は、小さな平和を築くことが平和への第一歩となり、大きな平和につながるという考えに至った。特に自分の身近な人を大切にすることが小さな平和につながるのではないかという考えをもった児童が多かった。

学習を進めるにあたって、本学級の児童は2学期までの様々な活動について意欲的な姿が多く見られた。その一方で、収集した情報を表にまとめて整理したり情報を多面的に思考したりする力がまだ十分に身に付いているとはいえない。そのため、収集した情報を目的に応じて多面的に思考する能力を身に付けさせる必要がある。

- **主体的に学ぼうとする「課題発見・解決学習」の単元開発**

導入時の課題設定の場面では、海田町が外国人の多い町であるということを示す資料から、自然やスポーツが特徴の町という海田町に対する児童の認識と外国籍の多い町であるという事実から認識と事実のずれに気付かせる。そして、本校にも多くの外国籍児童が在籍していることに着目させ、普段かかわりがあるにもかかわらず、外国籍の母国やその文化についてあまり知らないということに気付かせる。海田町国際交流協会の方から活動内容や活動への思いや願いを聞く活動を設ける。そして自分たちと海田町に暮らす外国人とのかかわりや海田町国際交流協会の方の活動内容や活動への思い・願いから、外国の文化を理解し、広げていくために自分たちにできることについて考え、課題として設定する。また、全校児童に紹介する文化について全体で考えさせ、目的や発信相手をもとに実

現可能かどうかを話し合わせる。そして、全校児童に向けてワールドフェスティバルを開催し、外国の文化に興味をもってもらうことを通して、自分達の身近な外国の文化について学び、国際的な理解を深めることを目的とする。

情報の収集の場面では、ワールドフェスティバルで全校児童に紹介する外国の文化について情報を収集する。まずワールドフェスティバルで紹介する外国の文化をグループで話し合い、必要な情報をどのような方法で収集するかを考えさせる。その際、図書資料を中心に目的に応じて必要な情報を取捨選択しながら収集させる。図書資料は学校図書館司書と連携し、関連資料を事前に収集しておくようにしておく。

整理・分析の場面では、ワールドフェスティバルの開催に向けて、活動内容を発信の目的や発信相手、発信方法の視点で考えさせる。全校児童に外国の文化に興味をもってもらうために、多面的に活動内容を見直し試行錯誤する姿を大切にする。そして決定した活動内容を友だち同士でリハーサルをさせる。その際も発信の目的や発信相手などの視点を常に意識させてリハーサルの見直しをさせる。

まとめ・創造・表現では、全校児童に向けて外国の文化を紹介させる。その際に外国の文化について多くの児童に興味をもってもらえるように活動を工夫させる。その際に紹介することへの喜びや楽しさを共有させ、今後の更なる活動への意欲につなげたい。**振り返り**の場面では、感想や当日の様子などをもとに、全校児童に身近な外国の文化を体験してもらい興味をもってもらうことができたかどうかを振り返る。そしてこれからの振り返りの内容を基に、新たに学習していきたいことや自分自身が今後取り組みたいことなどに活動をつなげることができるようにする。

○ 「学び合い」における協働的な思考の場の工夫

本単元ではグループ活動を中心に協働的な思考の場を工夫する。課題を設定する場面では、自分たちの身近にいる外国籍児童とのかかわりや海田町国際交流協会の方の思いや願いから、自分たちにとって身近な国や文化を紹介するということを常に意識させる。そして紹介する国や文化を発信の目的や発信相手、発信方法などから多面的に実現可能かどうか思考させ、個人の考えをもとにグループで紹介のしやすさや紹介する必要性の視点で座標軸に整理させる。

単元の目標及び内容について

○自ら課題を見付け、主体的に課題を解決しようとする態度や、目的や意図に応じて多面的に思考し必要な情報を整理分析したり、表現したりする力を育てる。

[学習方法に関すること]

- ・外国の文化に興味をもち、願いの実現に向けて課題を設定する。【課題発見能力】
- ・必要な情報を収集し、目的や意図に応じて多面的に思考して整理・分析する。

【課題追求・情報活用能力】

[自分自身に関すること]

- ・外国の文化に対する自己の考えを見直し、進んで考える。【自己の生き方】

[他者や社会とのかかわりに関すること]

- ・他者と協働しながら紹介に必要な情報を考え、発信する。【コミュニケーション能力・自己表現力】

単元の評価規準

学習方法		自分自身	他者や社会とのかかわり
課題発見力	課題追究・ 情報活用能力	自己の生き方	コミュニケーション能力・ 自己表現力
ワールドフェスティバルを開催して外国の文化を全校児童に体験してもらい、外国の文化に興味をもってもらうことを学習課題として設定している。 (ESDの視点：未来)	ワールドフェスティバルの開催に向けて、必要な情報を収集し、活動の目的や紹介する文化、発信相手、発信方法などに応じて、多面的に思考して整理分析している。 (ESDの視点：多面)	外国の文化に対する自己の捉え方を見直し、活動を通して自分自身できることについて考えている。 (ESDの視点：参加)	外国の文化を全校児童に体験してもらい興味をもってもらうために、調べたことを工夫して表現している。 (ESDの視点：伝達)

指導と評価の計画

全 14 時間

次	時	学習活動	評 価					
			課	情	自	コ	評価規準	評価方法
一	1	課題の設定（3） ○海田町の人口の特徴を知り、外国の文化をより理解することを学習のテーマとして、学習の見通しをもつ。 ・外国人の多い町（人口の3％、県内1位、全国平均の3倍を上回る。） ・ワールドフェスティバルを開催しよう	○				・海田町や学校の特色から外国人の多いことを捉え、主体的に活動目標や学習の計画を考えることができる。	行動観察
	2	○海田町国際交流協会の方からの話を聞き、外国の文化について知り、興味をもつ。	○			・海田町国際交流協会の方から話を聞き、外国の文化を知ることや紹介することに意欲をもっている。	行動観察	
	3	○全校の児童に向けて紹介する文化について考え、紹介のしやすさや紹介のしにくさから実現可能かどうかを話し合い、課題の解決方法を考える。 ・紹介する国や外国の文化（食、遊び、言語、スポーツ、音楽） 【本時】	○			・目的に応じて、紹介内容が実現可能かどうか多面的に考えている。	行動観察 ワークシート	
二	4	情報の収集（4） ○全校児童紹介する国や文化についてグループで話し合い、紹介に必要な情報を考える。		○		・活動の目的に応じて、グループで紹介する国や文化について、必要な情報を考えている。	行動観察 ワークシート	

次	時	学習活動	評 価					
			課	情	自	コ	評価規準	評価方法
二	5 ～ 7	情報の収集（４） ○紹介する外国の文化について調べ、まとめる。		○			<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的に応じて多面的に思考し、必要な情報を収集している。 外国の文化に対する自身の認識を見直し、自分自身にできることについて考えている。 	行動観察 ワークシート
三	8 ～ 9	整理・分析（５） ○これまでに調べたことや意見交流などを整理し、開催の目的に応じてワールドフェスティバルの活動内容が実行可能かどうかについて検討し、紹介する文化について話し合う。		○			<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的や紹介する文化、発信相手、発信方法などに応じて、収集した情報を整理し、紹介する文化について考えている。 	行動観察 ワークシート
三	10	○紹介する文化について話し合い、紹介する文化や紹介する方法を見直しながら紹介内容を決定する。			○		<ul style="list-style-type: none"> 外国の文化に対する自身の認識を見直し、自分とのつながりから紹介内容について考えている。 全校児童にも理解してもらえるように紹介する文化や発信方法を考えている。 	行動観察 ワークシート
	11 ～ 12	○多くの児童に外国の文化に興味をもってもらえるように、「ワールドフェスティバル」における役割分担を考え、グループごとにリハーサルを行い、見直しをする。			○		<ul style="list-style-type: none"> 紹介する文化や発信方法を見直し、全校児童に理解してもらえるように紹介の仕方を考えている。 	行動観察 ワークシート
四	13	まとめ・創造・表現（１） ○「ワールドフェスティバル」を開催し、全校児童向けに様々な国の遊びを紹介する。				○	<ul style="list-style-type: none"> 外国の文化を全校児童体験してもらい興味をもってもらうために、紹介する文化や発信方法などを工夫して表現している。 	行動観察 ワークシート
	14	振り返り（１） ○感想や当日の様子などをもとに活動を振り返り、これからの自分自身の生活に必要なことについて話し合い、自分自身が今後取り組みたいことなどを考え、今後の生活につなげる。				○	<ul style="list-style-type: none"> 活動を振り返り、今後の自分自身の生活につなげていくことについて考えている。 	行動観察 ワークシート

本時の学習

(1) 本時の目標

- 目的に応じて、紹介する国や文化について話し合い、紹介内容を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

- 目的に応じて、紹介する国や外国の文化について多面的に考えている。

【課題追究・情報活用能力】

(3) 本時の学習展開（3時間目／全14時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
1 前時の学習の復習と学習課題の確認を行う。 ・外国人の多い町 ・海田町国際交流協会の方の話 めあて 外国の文化に興味をもってもらうために、全校児童に紹介する文化を様々な視点から考えよう。	◇海田町や本校の特徴、海田町交流協会の方の話を想起させ、本時の学習課題の確認を行う。	
2 他学年児童に紹介する国について考える。 ○ワールドフェスティバルで全校児童に紹介する国はどんな国がいいですか。 ・ブラジル、ペルー、フィリピン、ロシア ・海田町にはブラジル人やペルー人が多く住んでいるから。 ・現在本校に外国籍が在籍しているから。 3 紹介する外国の文化について考える。 ○他の学年にどんなことを紹介するといいですか。 ・食べ物 ・言葉 ・スポーツ ・遊び ・音楽 ・あいさつ ・服 ・住 ・伝統 ・歴史 ○紹介する文化の内容が紹介しやすいかどうか、紹介する必要があるか考えよう。 <u>紹介の実現性</u> [よさ] ・紹介のしやすい ・興味をもってもらえる ・楽しい ・学年を問わず誰でも参加できる [問題点] ・紹介がしにくい ・準備が難しい(場所、人数、お金) <u>紹介の必要性</u> [よさ] ・珍しい ・身近かどうか [問題点] ・よく知られている ・関わりが薄い	◇目的や発信相手、本校の実態、海田町国際交流協会の方の思い・願いなどを多面的に考えさせ、外国の国籍の両親をもつ児童と自分のかかわりからワールドフェスティバルで紹介する身近な国を選ばせる。 ◆自分にかかわりが深い国にどのような国があるか海田町や本校の特徴から考えさせる。 ◇学習の目的や相手意識を踏まえ、紹介内容を選択した場合のメリットとデメリットを個人で考え、表にまとめさせる。 ◇紹介内容について、個人で考えたメリットやデメリットを基にして、紹介のしやすさと紹介する必要性の視点で座標軸にまとめ、紹介する内容についてグループで考えさせる。 ◇紹介する内容を座標軸にまとめ、グループで出た考えから学級全体で紹介する内容をいくつかの候補に絞り込ませる。 ◆学習の目的と関連させながら、自分が紹介したい内容を選択させ、その理由をグループ内で発表させる。 ◆座標軸に整理させる際に、机間指導を通して個別に声をかけ、座標軸の表し方を理解させる。	☆紹介する国や外国の文化が実現可能かどうか多面的に思考している。

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> □思考の場の工夫 多面性 学習のゴールに向けて、紹介する外国の文化が実現可能かどうかを多面的に考える。 (座標軸) </div> 4 本時のまとめと振り返りを行う。	◇学級全体で紹介する国や文化を決めさせ、考えたことをまとめさせる。	◎紹介する国や外国の文化が紹介可能かどうか多面的に考えている。〔課題追究・情報活用能力〕(行動観察・ワークシート)
★めざす児童の姿 まとめ (外国の文化について調べたいことや考えてみたいこと) ・私は自分にできることの一つとして、外国の遊びを調べて、多くの人と一緒に遊びを体験してもらおうと思う。日本人だけで遊ぶのではなくて外国籍の人と一緒に遊ぶことでその国のことも友だちのことももっとわかるようになると思うからだ。 ・私は自分にできることの一つとして、外国のスポーツと一緒にいることができると思う。一緒にその国のスポーツを行うことで外国の文化がもっとわかるようになると思うからだ。 ・私は全校児童に外国の文化に興味をもってもらうために遊びを調べて紹介すればよいと思う。その時に遊びの紹介やあいさつなどで外国の言葉を取り入れることでさらにその国への興味がもっとわくと思うからだ。		
5 次時の学習への見通しをもつ。	◇次時は自分達の紹介に必要な情報やその収集方法について考えることを伝える。	

(4) 板書計画

ワールドフェスティバルを開催しよう!

①外国の文化に興味をもってもらうために、全校児童に紹介する文化を様々な視点から考えよう。

紹介する国 **私たちに身近な国**

・ブラジル ・ペルー ・フィリピン ・ロシア

→外国籍児童在籍

→今後かかわりがあるかもしれない国

紹介する文化(内容)

・食べ物 ・言葉 ・スポーツ
 ・遊び ・音楽 ・あいさつ
 ・服 ・住 ・伝統 ・歴史

紹介する必要性 高

知られていない
知っておくと得

紹介しやすい

紹介する必要性 低

知られている

紹介しにくい

紹介しやすい

〈参考〉本時で使用する思考ツール

(座標軸)

